様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 4 月 18 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18330068
研究課題名（和文）日本における世代間移転と親子関係に関する経済分析
研究課題名（英文）An Economic Analysis of Intergenerational Transfers and Parent-Child Relations in Japan

研究代表者
C. Y. Horioka
大阪大学・社会経済研究所・教授
研究者番号：90173632

研究成果の概要（和文）：
本研究では、日本、アメリカ、中国、インドに関するデータを用い、国際比較の観点から遺産やそれ以外の世代間移転、親子関係（親子同居、子による親の経済的援助、世話、介護など）の実態と決定要因について検証することによってどの家計行動に関する理論モデルが実際に成り立っているか、国によってどういった違いがあるかを明らかにした。日本人が最も利己的であり、アメリカ、中国、インドに人々は比較的利他的であるということが分かった。

研究成果の概要（英文）：
In this research, we used data from Japan, the United States, China, and India to analyze the current state and determinants of bequests and other intergenerational transfers and parent-child relations (parent-child co-residence, financial assistance and care of parents by their children, etc.) from a cross-national perspective and to shed light on which theoretical model of household behavior applies in the real world and on what differences exist among countries. We found that the Japanese are the most selfish and that those in the United States, China, and India are the most altruistic.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	4,000,000	0	4,000,000
2007 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2008 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
年度			
総　計	15,400,000	3,420,000	18,820,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・応用経済学
キーワード：世代間移転、親子関係、遺産・相続、親子同居、家計行動、利己主義、利他主義、ライフ・サイクル仮説

１．研究開始当初の背景

家計行動に関する理論モデルは少なくとも４つある。すなわち、利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル、世代間の利他主義を前提とした利他主義モデル、人々が家または家業の存続を望むと仮定する王朝モデル、社会的規範モデルなどである。今までは、これらのモデルに関する理論モデルが構築され、これらのモデルの実社会における妥当性に関する実証研究もあったが、主に減税の個人消費に与える効果、高齢者の貯蓄行動などによる検証が多く、遺産やそれ以外の世代間移転、親子関係（親子同居、子による親の経済的援助、世話、介護など）による検証は少なかった。しかも、個別に国に関する分析が多く、国際比較の視点からの分析が少なかった。そこで、本研究の特徴は遺産動機、親子関係について検証することによってどの家計行動に関する理論モデルが実際に成り立っているかを明らかにしている点、日本、アメリカ、インド、中国に関するデータを用い、国際比較の観点から分析を行っている点である。本研究に用いたデータは「くらしの好みと満足度についてのアンケート」（大阪大学２１世紀 COE、グローバル COE)、「家族についての全国調査」（日本家族社会学会全国家族調査委員会)、「世帯内分配・世代間移転に関する研究調査」、「消費生活に関するパネル調査」（いずれも財団法人家計経済研究所）などである。

２．研究の目的

利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデル、世代間の利他主義を前提とした利他主義モデル、王朝モデル、社会的規範モデルなどのような家計行動に関する理論モデルのうち、どのモデルが実際に成り立っているのであろうか。本研究の目的は、様々なアンケート調査からの個票データを用いて日本における世代間移転（遺産、生前贈与）および親子関係について吟味し、そうすることによって、どの家計行動に関する理論モデルが日本および他国において成り立っているかを明らかにすることである。

３．研究の方法

本研究で用いた方法について述べると、遺産やそれ以外の世代間移転がどのくらいあり、子供がどの程度高齢の親と同居し、どの程度高齢の親の世話、介護、経済的援助をするかを明らかにし、これらの行動の決定要因について検証し、親の遺産やそれ以外の世代間移転（または親の資産）と子供が高齢の親と同居し、高齢の親の世話、介護、経済的援助などをする度合いの間にどの程度の相関があるかについて吟味した。また、そうすることによって、日本においてどの家計行動に関する理論モデルが成り立っているかを明らかにした。まず、家計行動に関する４つの理論モデル（ライフ・サイクル仮説、利他主義モデル、王朝モデル、社会的規範モデル）を構築し、それらのモデルの世代間移転、親子関係に対する含蓄を導出した。次に、記述統計を検討し、推定モデルおよび検定する仮説について検討し、使用するデータ（特に「くらしの好みと満足度についてのアンケート」（大阪大学２１世紀 COE、グローバル COE)、「家族についての全国調査」（日本家族社会学会全国家族調査委員会)、「世帯内分配・世代間移転に関する研究調査」、「消費生活に関するパネル調査」（いずれも財団法人家計経済研究所）の整理および分析を行い、分析結果を吟味し、論文をまとめた。

４．研究成果

本研究の成果について述べると、４つの家計行動に関する理論モデルが多かれ少なかれ日本においても他国においても成り立っているが、特に利己主義を前提としてライフ・サイクル・モデル、王朝モデルと社会的規範が成り立っているということが分かった。また、国際比較を行った結果、日本のほうが利己主義を前提としたライフ・サイクル・モデルが成り立っており、アメリカ、インドおよび中国のほうが利他主義モデルが成り立っているということが分かった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

① Wataru Kureishi and Midori Wakabayashi, “Son Preference in Japan,” *Journal of Population Economics*, 近刊、査読有

② Charles Yuji Horioka, “Aging and Saving in Asia,” Pacific Economic Review, 15(1), 2010, 46-55, 査読有

③ Midori Wakabayashi and Charles Yuji Horioka, "Is the Eldest Son Different? The Residential Choice of Siblings in Japan," Japan and the World Economy, 21(4), 337-348, 2009, 査読有

④ Wataru Kureishi, "Partial Vaccination Programs and the Eradication of Infectious Diseases," Economics Bulletin, 29(4), 2764-2775, 2009, 査読有

⑤ Charles Yuji Horioka, "Do Bequests Increase or Decrease Wealth Inequalities?" Economics Letters, 103(1), 23-25, 2009, 査読有

⑥ Tae Okada and Charles Yuji Horioka, "A Comment on Nishimura, Nakajima, and Kiyota's 'Does the Natural Selection Mechanism Still Work in Severe Recessions? Examination of the Japanese Economy in the 1990s'" *Journal of Economic Behavior and Organization*, 67(2), 2008, 517-520, 査読有

⑦ ホリオカ、チャールズ・ユウジ、「遺産と格差」、『季刊社会保障研究』、第44巻、第3号、2008, 307-315、査読有

⑧ Wataru Kureishi and Midori Wakabayashi, "Taxing the Stork," National Tax Journal, 61(2), 2008, 167-87, 査読有

⑨ Midori Wakabayashi, "The Retirement Consumption Puzzle in Japan," Journal of Population Economics, 21(4), 2008, 983-1005, 査読有

〔学会発表〕(計40件)

① Charles Yuji Horioka, "Cross-Country Differences in Household Saving Rates and Social Benefit Ratios," Pacific Economic Cooperation Council (PECC) International Workshop on Social Resilience Project," sponsored by the Pacific Economic Cooperation Council (PECC) and the Japan National Committee for Pacific Economic Cooperation (JANCPEC) and held at the International House of Japan, Tokyo, Japan, March 4-5, 2010 (招待講演)

② Charles Yuji Horioka, "Japan and the Western Model: An Economists' View of Cultures of Household Finance," Conference on "Cultures of Credit: Consumer Lending and Borrowing in Modern Economics," German Historical Institute, Washington, D.C., February 5-6, 2010 (招待講演)

③ Charles Yuji Horioka, "Strategy for Asia-Pacific Prosperity: Inclusive Growth," APEC (Asia-Pacific Economic Cooperation) Japan 2010 Symposium, Hotel Nikko Tokyo, Tokyo, Japan, December 9-10, 2009, sponsored jointly by the Japanese Ministry of Foreign Affairs and the Japanese Ministry of Economy, Trade, and Industry (招待講演)

④ Charles Yuji Horioka, "Cross-Country Differences in Household Saving Rates and Social Benefit Ratios," Asian Development Bank Institute (ADBI) Annual Conference on "The Effects of Social Policy on Domestic Demand," Asian Development Bank Institute (ADBI), Tokyo, Japan, December 4, 2009 (招待講演)

⑤ Charles Yuji Horioka, "Past and Future Trends in Japan's Household Saving Rateand the Implications for Japan's Current Account Balance," 2009 Signature Event: Trade and Industry in Asia Pacific: History, Trends and Prospects, November 19-20, 2009, Australian National University, Canberra, Australia (招待講演)

⑥ Charles Yuji Horioka, "Recent Trends inConsumption and Saving in Japan," Conference on Economic Crisis and Recovery: Enhancing Resilience, Structural Reform, and Freer Trade in the Asia-Pacific Region, October 7-8, 2009, Pacific Economic Cooperation Council, Singapore, Singapore (招待講演)

⑦ Charles Yuji Horioka, "The Saving Behavior of the Aged in Japan," The First Tsinghua Workshop in Macroeconomics, July 6-8, 2009, Tsinghua University, Beijing, China (招待講演)

⑧ Charles Yuji Horioka, "Altruism, Bequest Motives, and Parent-Child Relations in the U.S., Japan, China, and India," 8th Biennial Conference of the Asian Consumer and Family EconomicsAssociation (ACFEA)、2009年7月2日～5日、山口大学、山口県山口市 (基調講演)

⑨ Charles Yuji Horioka, "The Saving Behavior of the Aged in Japan," International Workshop on the Prospects of Aging Economy, National Cheng Kung Univ., Tainan, Taiwan, March 4, 2009 (基調講演)

〔図書〕(計1件)

① チャールズ・ユウジ・ホリオカ、財団法人家計経済研究所共編、『世帯内分配・世代間移転の経済分析』(ミネルヴァ書房、2008年)。

6．研究組織

(1)研究代表者

C. Y. Horioka
大阪大学・社会経済研究所・教授
研究者番号：90173632

(2)研究分担者

若林緑(MIDORI WAKABAYASHI)
大阪府立大学・経済学部・准教授
研究者番号：60364022

暮石渉(WATARU KUREISHI)
国立社会保障・人口問題研究所・研究員)
研究者番号：00509341